

平成 28 年度 京都市立白河総合支援学校 学校教育目標・経営方針

校長 松田 実

教育理念

- 人は、自ら学び、成長・発達することができる
 - 人は、自ら持てる力を活かし、社会に貢献することができる
 - 人は、自ら生涯にわたって生き方を探求し、豊かな人生を送ることができる
- これらのことを踏まえ、本校は、地域や企業と協働して生き方探究（キャリア）教育を推進する

学校教育目標

自ら働く力を高め、働くことを通して社会に貢献し、自らの未来を切り拓く人を育む

目指す生徒像 <自ら考え行動する生徒>

- 自ら学び、自らを高めようとする生徒
- 自ら律する力を高めようとする生徒
(他者や社会とのかかわりの中で、自らより良い行動をとろうとする生徒)
- 自らの未来を切り拓こうとする生徒
- 自ら健康管理に努める生徒
- 人に感謝し、社会に貢献しようとする生徒

目指す教職員像 <職業人として生徒のモデルとなる教職員>

- 一人一人の生徒を徹底的に大切にする教職員
- 生徒一人一人のキャリア発達を支援するための適切な学習内容・学びの場を提供する教職員
- 総合支援学校教職員としての専門性を高め、自らキャリアアップを図る教職員
- 保護者・地域・企業・関係機関等との連携を大切にする教職員
- 自らの健康管理に努め、ライフワークバランスをとる教職員

目指す学校像 <地域・企業と共に歩む学校>

- 地域に開かれ、地域や企業と協働し、社会に貢献する学校
- 生徒・保護者・市民から信頼される学校
- 「育」支援センターを中心に総合育成支援教育に関する相談センター機能を発揮する学校

経営方針

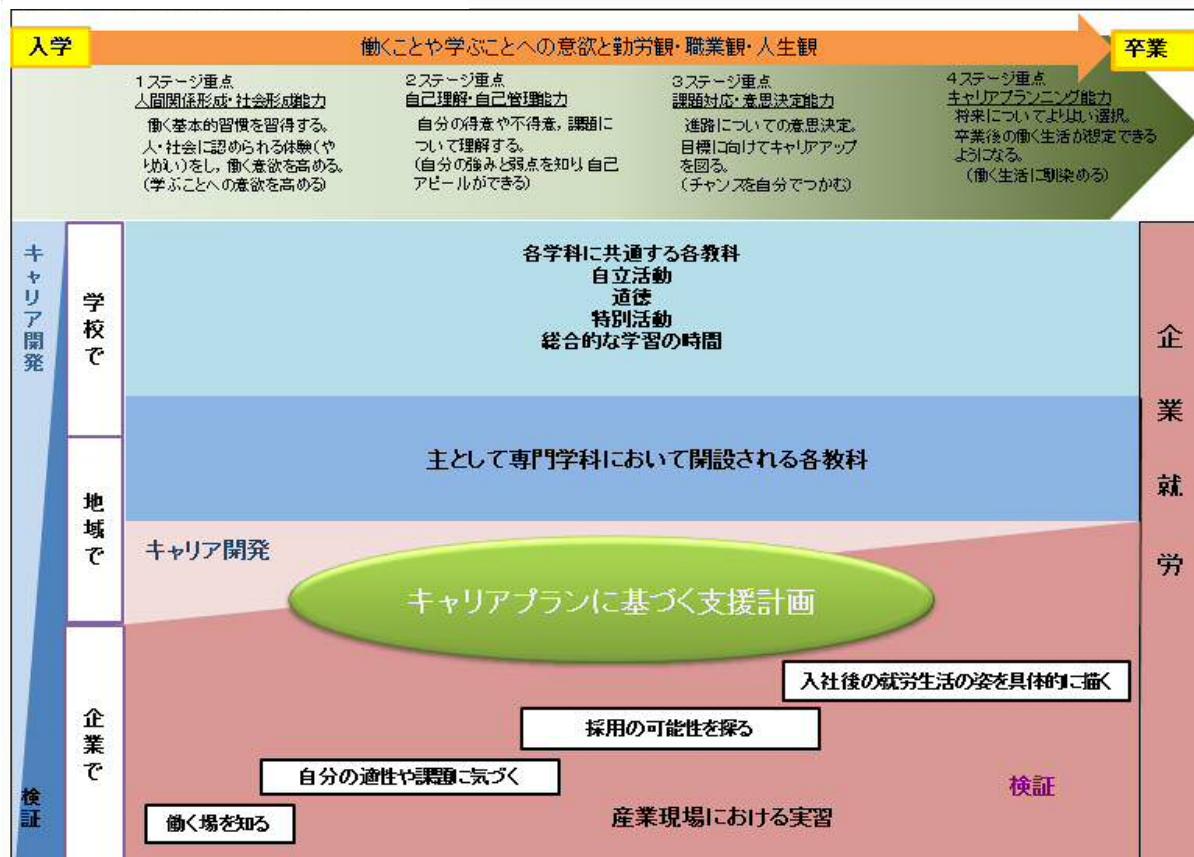
「学びの環境をデザインする」

～学校教育活動全てを「学びの場」ととらえる～

1. デュアルシステムの充実（企業との連携：学びの環境をデザインする）

企業とのパートナーシップによるデュアルシステムのさらなる充実を図り、生徒の働く力を着実に育成する。

産業総合科 教育課程構造図



- (1) キャリアプラン（「個別の包括支援プラン」）に基づく支援計画（「キャリアデザイン」）の作成
 - ・何のために、何を、誰が、いつ、どこで、どのようにするかを明確にする
 - ・キャリアデザインの課題の達成状況を確認し、ステージを進行していく（学年進行ではなく、個々の状況に合わせて進行、また、固定的なものではない）
- (2) 働く力を高め、働く生活を支えるため、専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した指導内容を策定するとともにシラバスの見直し・構築を進める
 - ① 専門教科（食品加工・農園芸・情報印刷）
 - ・校内外の演習等を通して働く力の基礎的・基本的な知識・技能を高める
 - ・産業現場実習・共通教科の内容や個々の生徒の課題を関連付けた指導内容を策定する

- ・地域協働活動を通して生徒の自己有用感、ひいては自己肯定感を高める
- ② 共通教科（知的障害特別支援学校の職業学科と普通科に共通する教科）
- ・産業現場実習・専門教科の内容や個々の生徒の課題を関連付け、卒業後の働く生活・家庭生活を支えていくための視点を持った指導内容を策定する
 - ・働く生活や文化的で豊かな生活を支え、また、豊かな情操を育んでいくため、芸術的教科（音楽・美術）や茶道・華道等の伝統文化に触れる活動を充実させる
 - ・働く生活を支える体力を養い、健康で安全な生活を支えるため、保健体育、健康教育、防災教育の内容を充実させる
- ③ 実習指導の充実
- ・長期の産業現場実習を通して働く力を高める（3年間で30週間程度）
 - ・個々の生徒に関わる全ての教職員が生徒の課題や支援方法を把握・共有し、実習指導担当者（担任等）は実習先に的確に伝える
 - ・実習から得られた成果や気付き・課題等を個別のキャリアデザインに反映させ、専門教科・共通教科での学習等に活かしていく
- ④ 指導内容・シラバスの見直し
- 〈平成27年度〉…専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した学習の実施、学習内容の記録・整理
- 〈平成28年度〉…専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した学習の展開、シラバスの構築
- 〈平成29年度〉…専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した学習の充実、シラバスの再見直し

- (3) 関係機関や各種経済団体等との連携や協力
- デュアルシステム推進ネットワーク会議（企業関係者とのネットワーク）
 - 巣立ちのネットWORK会議（関係機関との支援ネットワーク）
- (4) 職場開拓の推進
- ・全教職員、PTAが職場開拓に当たり、実習先や就労先の確保に努める
 - ・新しい職域の職場開拓の推進

2. 地域協働活動の推進（地域との協働：学びの環境をデザインする）

自己有用感、自己肯定感を高めることに焦点をあて、働くための基盤となる資質や能力を育成するために地域協働活動を推進する。

- (1) 地域協働活動の意義
- ① 地域協働活動を行うことで、地域の方の活動の場などを作ることができ、地域に貢献することができる
- ② 地域の方々（多様な年齢の方々）からの求めに応じる多様な活動は、生徒の社会性と

- コミュニケーション力を高める効果が期待できる
- ③ 活動を通じて、「役に立っている」「求められている」と実感することや、「大事にされている」「感謝されている」と感じることは、自己有用感を高め、ひいては自己肯定感を高めていくことにもつながり、社会の中で働くためのベースとなる力が育成されていくと考える
 - ④ 地域協働活動の開発は京都市立総合支援学校職業学科3校が共同して行い、今後の職業学科の在り方の検討にもつなげていく

(2) 地域協働活動の例

- ① 学校運営協議会・地域関係者・学識経験者との協働
 - ・生徒会活動と関連させた地域活性化・地域貢献・地域校内美化活動等
 - ・交流農園　・街路樹サポーター　・地域感謝祭
- ② 社会福祉協議会・地域包括支援センター等関係機関、小学校・児童館等との協働
 - ・配食サービス（あんずの会、サクランボの会）
 - ・いどばたサロン（社会福祉協議会）
 - ・体操教室（地域包括支援センター）
 - ・認知症あんしんサポーター養成講座（地域包括支援センター、錦林小学校）
 - ・子育てサロン、乳幼児教室等でのパン等の販売（錦林児童館）

3. 職業学科3校の持つリソース（教育資源）の活用・プラットホーム化の推進

(3) 校連携、校種を越えた連携：学びの環境をデザインする

※リソース（教育資源）…3校の教育資源（各専門教科の特長や、白河・東山・鳴滝3校が培ってきた指導のノウハウ、各学習施設・設備等）

(1) リソース活用・プラットホーム化の意義、

- ① 生徒一人一人のキャリア発達に即した必要としている多様な学びの場を提供することが可能となる
- ② 多様な学びの場を活用することで、個々の生徒の課題に沿った就労支援を進めていく
- ③ 学校を越えた生徒同士の教え合い、学び合いの場ともなる
 - （例）・白河総合の生徒が鳴滝総合に行き、メンテナンス（鳴滝）の学習に入る。
 - ・養正サテライトの喫茶サービスや読み聞かせ等に鳴滝総合の生徒が入る。
- ④ 職業学科3校にとどまらず、地域制総合支援学校、他校種の児童生徒の学びの場としての提供も視野に入れ、今後の職業学科の在り方の検討にもつなげていく

(2) 取組の進め方

- ① 職業学科3校の協力体制の下、より柔軟な指導体制を構築
- ② 3校リソースの活用を担当し推進する役割を校内分掌に位置付けて取り組む

4. 気持ちよく学べる学校・地域に愛される学校（環境整備）

(1) 生徒も教職員も、整理・整頓・美化に努める

- (2) 来客をもてなす明るい雰囲気の学校づくりを進める
- (3) 生徒会活動とも関連付け、いつも花や緑にあふれた学校づくりを進める
- (4) 生徒作品(生徒の発表の場)や絵画・美術作品等が常に展示されている学校づくりを進める
- (5) 掲示物が常に更新され、新たな情報が発信されている学校づくりを進める
- (6) 施設改修・修繕、備品の更新等を計画的に進める

5. 学校経理・事務

- (1) 学校予算の適正で効果的な運用に努める
- (2) 間違いのない文書作成および遅滞のない提出に努める

6. 防災体制の充実

- (1) 防災マニュアル・消防計画に基づき以下の点の充実を図る
 - ① 教職員防災体制、保護者との連携、地域との連携、行政との連携の整備
 - ② 毎月の安全点検の確実な実施
 - ③ 避難訓練・防災研修の計画的な実施
 - ④ PTAとの連携による備蓄の充実
 - ⑤ より災害に強い施設設備への計画的な改修
- (2) 避難所の開設に当たっては、地域・行政との緊密な連携のもとに行う
 - ① 避難所開設・運用訓練（地域自治連合会・地域自主防災会等）の実施への協力
 - ・教職員・生徒の訓練への参加の検討
 - ② 避難所開設用備品、備蓄食料・飲料等の保管

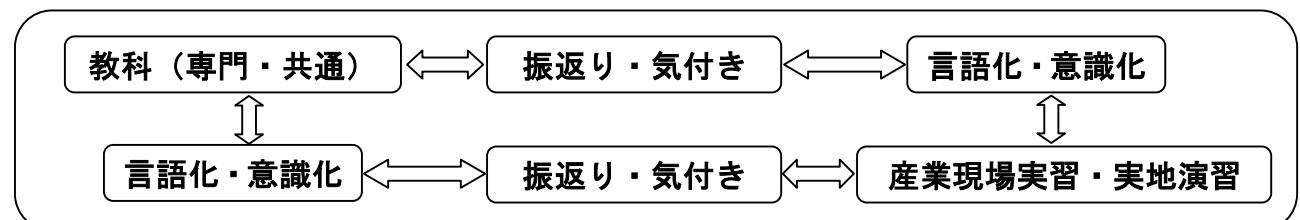
指導の基本

1. 指導体制

- (1) 専門教科の縦のつながりと学年集団の横のつながり、さらに就労支援を関連付けた指導体制とする
- (2) 教職員が様々な学習活動〔産業現場実習、教科(専門教科・共通教科)、地域協働活動、3校リソースの活用 等〕に入り、フレキシブルに動ける指導体制とする

2. 振返りと気づきを大切にする

経験を振り返り、気付き、言語化・意識化し、それに基づき自己選択・自己決定して、達成感や自己有用感を積み上げられるよう支援する

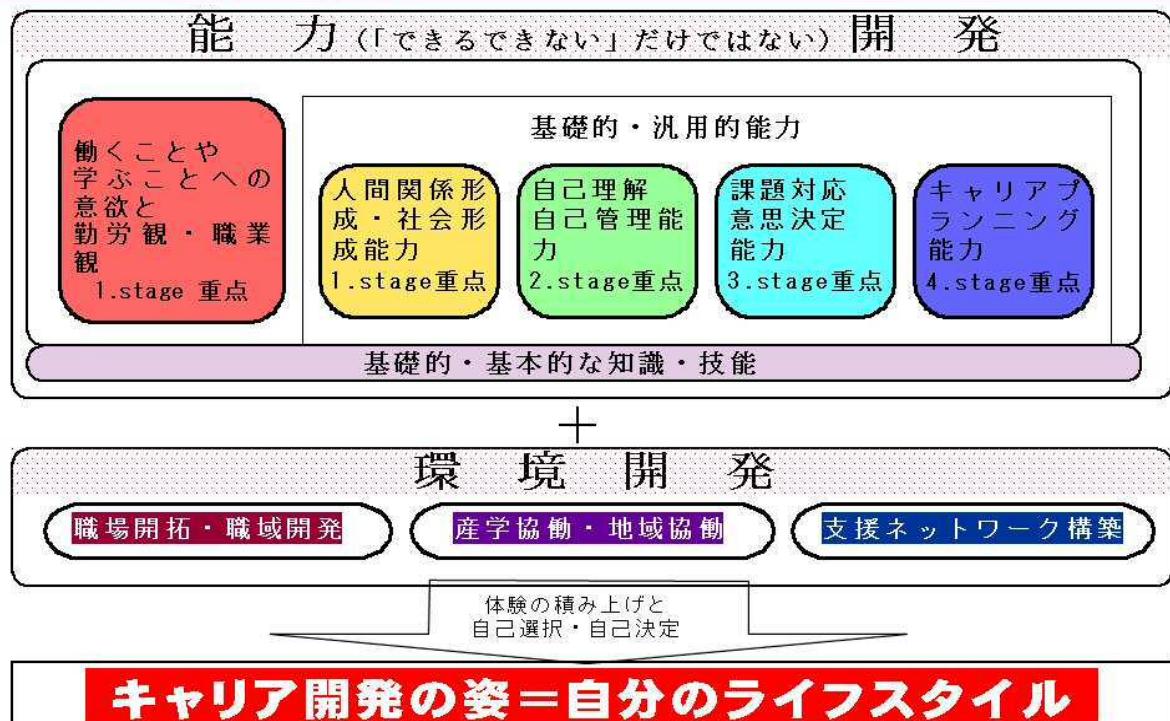


3. キャリアデザインを活用し、ステージを意識した指導を進める

(ただし学年進行にはこだわらない)

- (1) 各ステージ通過の観点を教員・生徒・保護者が共有する
- (2) キャリアデザインに反映させた課題の具体的な達成状況を確認し、把握する
- (3) キャリア開発は、能力開発と環境開発を合わせたものとしてとらえる

キャリア開発の考え方



4. 生徒指導

- (1) 本人の気持ちに寄り添いながら自ら気付き修正できるための支援を行う
- (2) 生徒の主体性を引き出し、生徒同士が育ち合う学級づくり・環境づくりを推進する
 - ・いじめ、差別を許さない学級集団を育成する
- (3) 全ての学習活動を通して「職業人としての」常識やモラルの指導を徹底する
 - ・挨拶やマナー・ルール等の意味や意義の理解を通した規範意識の確立を図る
- (4) 全ての学習活動を通して「職業人として」必要な健康管理と安全管理の指導を徹底する
- (5) 社会人としてのライフスタイルを見据えた性と生の教育の充実を図る
- (6) 問題が起こったときは、組織とネットワーク全体で解決を図る

5. 各種検定、スポーツ大会、文化的発表会等への積極的な参加

- (1) アビリティック、ビジネス文書検定等の各種検定に向けて目標を持って取組を進めチャレンジする精神を育む
- (2) 検定等に向けて取組を進めること、また、合格することで達成感や自信を深められるようになる
- (3) 水泳、陸上、野球、卓球、卓球バレー他、部活動の大会や各種スポーツ大会・記録会等に

積極的に参加し、心身を鍛えるとともに豊かな生活を送るための糧とする

- (4) 音楽・和太鼓等の部活動の発表、美術作品の発表・展示等に積極的に参加することを通して自己の表現活動を行うとともに、豊かな生活を送るための糧とする

事業・重要課題(再掲)

◆職業学科3校の共同研究の推進

(文部科学省「キャリア教育・就労支援等充実事業」 第三年次)

＜研究主題＞

就労に向けた基盤となる自己肯定感を育むための地域協働・共生型活動の開発
—キャリア発達を促すための教育環境の開発と新たな就労支援の在り方—

＜内容＞

- (1) 職業学科3校のリソースの共有化・プラットホーム化の推進
- (2) 地域協働活動の共同開発
- (3) 「自己肯定感」がどのように高まっているか等についての研究
- (4) ICTの就労支援・地域協働活動等への活用についての実践研究（指導実践を通して）

◆徹底した就労支援

- (1) デュアルシステム、産業現場実習の充実
 - ・実習指導の在り方の見直し
 - ・職場開拓の充実
- (2) 働く力を高め、働く生活を支えるため、専門教科・共通教科・産業現場実習を相互に関連付け一体化した指導内容を策定する
- (3) シラバスの見直し・構築を進める

目標を具体化するための学校運営協議会3つのプロジェクト

生徒のキャリア開発の視点に基づく地域社会・企業との協働組織

キャリア開発＝能力開発＋環境開発

学校内で完結しない教育

デュアルシステム（企業と協働）

地域コラボレーション（地域と協働）

産業現場実習

学校での教育活動

地域協働活動

支援部会 学年会 教科（専門・共通）ブロック・サービス会等

ともに拓く
キャリア開発PJ

ともに創る
地域活性化PJ

ともに支える
地域貢献PJ

デュアルシステム推進ネットワーク会議
京都市の総合支援学校
企業経営者・人事担当者
就労生活支援事業関係者

巣立ちのネットワーク事務局
京都市立総合支援学校
校長会・進路主事会
企業経営者・就労生活支援事業
関係者

企業から学び企業と連携した就労支援事業の推進

- ★就労支援事業
- ★キャリアサポート事業
 - ①就労に関する相談
 - ②入学希望者支援

左京地域支援ネットワーク
左京福祉、府警、左南・高野包括C、介護予防C、
岡崎自治連・社協 NPO諸ボランティア団体

地域主催の学校を利用した
行事への参加や地域と協働
した行事の実施により地域
社会を活性化する

- ★地域感謝祭
- ★地域協働行事
- ★地元行事 参加・支援
- ★地域協働農園他

日常的に専門教科の演習と
して地域の人たちと協働し
て地域福祉に貢献する

- 地域支援協働事業
- ★高齢者支援関連事業
- ★配食サービス
- ★コミュニティ喫茶
- ★その他コミュニティ支援

夏季職場開拓

キャリアカウンセリング研修会

地域感謝祭参画

P T A

地域支援事業参加

学校運営協議会（コミュニティスクール）